

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2017年8月26日公開

イラン、北朝鮮、ロシア、イスラエル、日蝕、9月23日？

.....

中東情勢をお伝えしますが、それほど長くはなりません。皆さんご存知の通り、ここ数日間に中東でいくつかの事が起こりました。同じようにアメリカ、北朝鮮でもありましたが、北朝鮮は短距離ミサイルを発射未遂し、日本からさほど遠くない海に落ちました。しかし、我々が得た諜報機関からの情報によると、それは打ち上げ失敗だったとのこと。つまり、彼らは、未だにミサイル発射実験を行っているのです。彼らは、世界中の国々を挑発することがベストだと思っているのです。いつも言っていますが、北朝鮮は終わりの時の特徴としてイエスが言われた「戦争のうわさ」だと、私は思っています。

アメリカでは、テキサスの海岸線をハリケーンが襲いました。現在、強度が1になった事は、神に感謝です。そして、多くの方が、現在イスラエル入りして平和を推し進めようとしているクシュナー氏（トランプ大統領の娘婿、大統領上級顧問）とこれを結び付けようとしています。私は、この二つを結び付けることには、非常に慎重になっています。第一に、クシュナーが2週間前に行った事と、今回行っていることは、なんら変わりがありません。もしくは、以前の政権が1,2年前に行って失敗に終わったのと同じ定型句で、それは起こりません。なぜなら、交渉の基本的要素がそこにはあり、エルサレムについて語らず、国境について語らず、難民の帰還について語らなければ、爆弾を後回しにしているということです。だから私は、これは全く関係がないと思っています。実際、この政権は、イスラエルに圧力をかけてはいないのですから。そして実際、「二国解決案」の呪文を唱えなかったのは、この政権が初めてです。近い将来に、それが成立することはないだろうと、彼らは理解しているからです。だから私は、この二つを結び付けませんが、ただ皆さんに知っておいてほしいのは、イラン軍に新しい高官が就任したということです。数日前に、彼が宣誓したのは、何も目新しい事ではなく、今、また繰り返されているだけですが、——イランの前大統領も、宗教指導者も、何度も言っていました。

「イスラエルは、これから25年先には存在していない」

と。言っておきますが、聖書にはこう書かれています。イスラエルは25年後も存在するばかりではなく、完全に破滅させられたり、忘れ去られることは決してない、と。イランの人たちにはぜひ、エゼキエル書38~39章を読むことをお勧めします。そうすれば、彼らがイスラエルを攻撃した結果として、ペルシャ（イランの旧国名）に何が起こるのかが分かる事でしょう。彼らこそが、敗北し破滅するのです。しかし、彼らが敗北するためには、戦争が起こらなくてはなりません。戦争が起こるには、理由が必要です。そして、その理由のために、今週初め、まさにベンジャミン・ネタニヤフが、黒海にあるロシアのリゾート地ソチまで飛んで、現在ヴラジミール・プーチンと秘密諜報機関と会っています。

皆さん、次にこのことを理解しておいてください。これは明確に説明しておかなければなりません。ベンジャミン・ネタニヤフや他の閣僚たちが「地域戦争」という言葉を使ったのは、この何年もの間で、初めての事です。「地域戦争」です。ちなみにエゼキエル戦争は、地域戦争以外の何ものでもありません。ともかく、彼らは

「我々は今、あなたがた全員に警告する。イランがシリアで行っている事——軍事基地の建設や、軍事威力の構築の為に、地域戦争が起ころうとしている。そして、我々には、そばで傍観せず、それを阻止するために行動に出る権利があるのだ」

と述べています。次に、ネタニヤフとプーチンの会談の結果として、唯一良かったことは、「会談」がおこなわれたことです。つまり、コミュニケーションがあれば、

「このリーダーたちは話し合っている。だから、自分たちは下手な事はできない」と、下層の人々は思うのです。

「彼らはお互いを知っていて、互いに尊敬し合っており、対話をし、面会をし、共に席について物事について話し合うのだ。だから、自分たちは慎重にしなければならない」と。

ここ数年間は今のところ、イスラエル—ロシア間に暗黙の了解があるのです。ヒズボラがイランと北朝鮮によって武装される事を、我々が防ぐのを、彼らが邪魔さえしなければ、彼らがシリアで何を行っても、我々は邪魔をしないのです。しかし、ここへ来て大問題にぶち当たりました。これまでイランは、アサドが生き残るのを手助けすることに忙しかつたのが、ここ数か月の間に ISIS が減少してきて、—ISIS はイラク北部やシリアで、どんどん窮地に追い込まれています。そして、基本的にはスンニ派の反政府勢力が敗北し、シーア派のシリア兵とイラク兵、イラン兵の連合軍が、この戦争全体で勝利しています。これはイスラエルにとっては大打撃です。我々は、スンニ派が勝つことを望んでおり、国境の向こう側にイラン兵を来させたくはありません。もちろん、我々は ISIS も望みません。

しかしそれ以上に、イスラエルの政治家や軍司令官ですら、聖書預言に気を留めていないのです。聖書預言は、これから「起こる事」について告げています。政治家は、起こってほしい、と彼らの「望むこと」を話します。しかし、この聖書は「起こる事」を伝えていますが。私はいつも言いますが、この世には2つの並行する軌道があり、一つは神の御心—あなたの人生に対する計画で、もう一つは、全世界に対する計画です。あなたの人生に対する計画は、キリストに従うかどうか、あなたの決断によって決まります。もし、あなたが主に従うなら、世界で事が起こっている間に、あなたの過ごす場所が決まります。次に世の出来事は、全知・全能・遍在の神によって、既に決定されています。神は全知です。サタンは将来に関しての理解に限界がありますが、神は全てを知っておられます。神はロシアやイラン、トルコ、スーダン、リビアがどういった決断をするのか、はっきりと分かっておられます。彼らがイスラエルを攻撃する機会を、どれほど凝視しているか、そして一旦何か大きな事が起こると、それが実行されることも、神はご存知です。そして、イスラエルは初めて世界に告げたのです。

「イランをシリアには駐留させない。」と。

我々は、イランの手先であるレバノンのヒズボラに対処しています。彼らはテロ組織ですから、我々がヒズボラに対して、やりたいようにするとの暗黙の了解の道を、ロシアは求めています。しかし今、ロシアとイランは味方同士です。ロシアは現在、イランと契約を結ぶことに興味を示していて、我々が、イランの手先であるヒズボラに対して行うのと同じことをイランに行うのは、ロシアが認めないのです。このために、ベンジャミン・ネタニヤフはソチまで行かなければならなかったのです。ロシアの大統領に会うのは、これが初めてではありません。数か月前にも、彼は同じことについて、同じ話をしたのです。そして今また戻る理由は、ロシアが何もしないからです。彼らはイランの拡大に対して盲目で、イランの好き放題にさせています。たぶん、イスラエルの国境から 20 マイル（約 32 km）ほど離れたり、表面的な事は行っているでしょう。しかし、ミサイルの話ですから、それは何の役にも立ちません。つまり要点は、イスラエルが、イランを押しやろうとすることによって、イランはダマスカス周辺に行き、そしてダマスカスでアサドが権力を握り続けられるよう、援助するでしょう。私はこれまでもずっと、何度も何度も言ってきましたが、大きな確率で、イスラエルがダマスカスを攻撃するのでし

よう。恐らく、イランの脅威を廃絶することで、ロシア、イラン、その他が、有名な戦争——エゼキエルのゴグとマゴグへと突入するのでしょう。ですから私は、現在の展開を大変な興味をもって見ています。皆さんもどうか注目してください。時には行間を読むと良いですよ。ネタニヤフは、旅をする時にはいつも、その前や最中、後にも、フェイスブックでイスラエルの人々に伝えます。その中で彼は、私たちに理解しておいてほしいことを伝えます。ロシアは、イランがシリアに入っていくようがいまいが、どうでも良いのです。それに関して心配すべきは、イスラエルです。だから彼は、私たちに保障しているのです。

「我々は傍観者にはならない。この脅威を終息させるためなら、我々はどんなことでも行う」と。ちなみに、今のところ、我々とロシアとの間の理解では、我々がこちらに向けられる全ての脅威を根絶するために、シリア上空で自由に活動することを、ロシアは認めています。しかしそれは、ヒズボラ側から来る脅威であって、イランの脅威となると、ロシアの口調は全く異なります。これを、我々は現在、最も危惧しているのです。ですから、世の中が日蝕を見ている間、我々は国境の向こう側のイランの拡大に目を向けているのです。それ以外の事は、我々は心配していません。

次に、皆さんにお伝えしておきたいのは、9月23日について。多くの人々から何度も質問を受けています。その前の日蝕にまで戻りましょう。日蝕は数年前にも、60年代後半にも起こりましたし、また起こります。日蝕はアメリカだけでなく、世界中で起こります。繰り返しますが、皆さん、理解しておいてください。私は「しるし」には全く反対していません。「全く」です。太陽も星も、与えられた「しるし」であると、私は心の底から信じています。ただ、「しるし」は未信者に理解させるためのものなのです。説明しますと、私たちクリスチャンはいずれ、新しいエルサレムに入ります。その時、しるしはもう必要ないのです。あちらでは太陽も月も星もないのですから。その瞬間まで、私たちは未信者の目を引く必要があります。ちょうどイスラエルにしるしが与えられたように。「処女がみごもる」と。これはイスラエル、それも、イスラエルの未信者のためのものです。

14 …見よ。処女がみごもっている。(イザヤ書 7:14)

彼らは信じましたか？いいえ。3人の東の王たちが、星を見てそれに従いましたが、彼らは未信者でした。未信者が星について行って、そこで生まれたばかりの王を見て、ひざまずいたのです。私が言おうとしているのは、

- ① しるしとは、NASA やコンピューターの画面を通してではなく、誰の目にも見えるものでなければなりません。
- ② それは、預言の特定の出来事に関連していなければなりません。そう言うと、「黙示録 12 章が特定の出来事だ」と言うのですが、良いですか？黙示録 12 章には、2つの出来事について書かれています。それなのに、どうして1つの出来事だけ語り、もう一方を無視するのですか？黙示録 12 章を読んで、ご自分で確かめてください。

まず第一に、それが起こると NASA が発表した星の並びは、いくつかの材料に欠けています。そして、これから起こることは、過去に何度か起こった事です。第二に、大部分の人が、この星の並びの大半

を、コンピューターの画面を通してでなければ見られません。つまり、要点はこうです。自分たちの生きている時、季節を理解している我々クリスチャンは、イエスの弟子たちが聞いたときに——主イエスは、終わりの時、主が来られる時のしるしとして、起こる事の詳細をリストにして与えられました。そのリストこそが、我々クリスチャンが追うべきものです。リストはマタイ 24 章、ルカ 21 章に詳細が書かれています。戦争のことや、戦争のうわさ、飢餓、疫病、地震、そしていちじくの木が芽吹くように、イスラエルが かの地に戻る。これらの出来事が起こっていて、私はそれにワクワクするのです。それが見えているのですから。誰でも見る事が出来るのです。コンピューターも必要なければ、NASA の報告も必要ありません。天文学やそういったものは何も必要ありません。

これに関してもう一つの問題は、すっかりコントロールを失ってしまっている点です。人々がこの 9 月の事について、あまりにもものめり込み過ぎて、言葉の上でとても暴力的になっています。彼らは怒りや激しい対立で人を攻撃しています。この終わりの時、終わりの瞬間に、どうしていつも争うことを選ぶのか、私には理解できません。私たちは、未だかつてなかったほどに互いに愛し合うべきなのに。それによって、私たちが主の弟子であることを、全ての人認めるのです。そして、イエスが私たちに覚えておくようにと教えてくださったしるしがあるのです。私たちはそこに留まらなければなりません。私たちは、主がもうすぐ戻って来られることを知っています。これら全てのしるしが告げているのですから。主が今日にも来て、私たちを連れて行ってくださると思いつつ、一日一日を生きなければなりません。だからどうか皆さん、星を見上げず、頭を上げましょう。「どうして頭を上げるのか？」とよく聞かれますが、イエスでさえ頭を上げられたのです。御父を見上げられたのです。イザヤも頭を上げるについて語っています。イエスも頭を上げられました。弟子たちも頭を上げました。私たちは、星に向かって頭を上げるのではなく、主のおられる所を見上げるのです。そして、主の居られる所に向かって頭を上げます。主が、もうすぐ戻って来られますから。だから私たちは、目を天に向けるのです。主が、そこから戻って来られるからです。それが、私たちが求めるべき事です。それが、私たちがこだわるべき事です。そして私たちは、こういったことで対立したり、混乱したりしないように十分に注意しなければなりません。それから私は、だれの事も馬鹿にするつもりはありませんが言っておきます。9 月 24 日にはまた、コーヒーが飲めますよ。何も起こりませんから。何故でしょう？なぜ私はそう言うのでしょうか？私は何百という数の報道を読みましたが、私が読んだ報道の全てが、角を切り取ったり、数遊びで、日蝕から 9 月までの日数が 40 日だとか言っていますが、40 日ではなく、34 日ですから！そして、ラッパの祭りの日について言っていますが、これはラッパの祭りの初めではなく、ラッパの祭りの最後の日です。それだけではありません。聖書には「その日、その時は誰も知らない。人の子（イエス）も知らない。」と書いてあるのに、なぜしつこくその日その時を知ろうとするのですか？私たちがその日その時を知るべきでない聖書が語る理由は、そうすることで私たちが常に備えられるようになるためです。

だから言うのです。主の来臨の期待については、

「今日が最後の日だと思って生きなさい。」

そして、先の計画を立てる事には

「あと 300 年はあるかの如く生きなさい。」

あまりにも多くの人が、ブラッドムーンやその他の事について本を書いて、作品や何かを販売したペテ

ン師たちに騙されて、全てを売り払ったり、仕事を辞めたりして、何も残っていないのです。一方で、私たちは賢明にならなくてはなりません。鳩のように素直で、蛇のようにさとく。私たちは行動する時、とても慎重になるべきです。しかし、肝心なのは、体を真っ直ぐにして頭を上げましょう。私たちの贖いが、確かに近づいていますから。

私は一週間以内にイギリスに行き、週末はそこに滞在しますが、とても楽しみにしています。預言カンファレンス、テレビ、ラジオ、またそれ以外でも2カ所で講演します。そして、いったんこちらに戻って来て、カルバリーチャペル Appleton の預言カンファレンスにスカイプで参加します。カンファレンスのタイトルは「御霊も花嫁も言う。『来てください。』」。私がずっと言い続けている黙示録の御言葉です。カルバリーチャペル Appleton の「2017年預言カレッジ」については、私たちのウェブサイトをご覧ください。その時、私はイスラエルでツアーを引率していますので、肉体的にはそこにいませんが、イスラエル時間の夜9時、約一時間スカイプで参加します。ということで、9月23日についても、私の知っている事、私の信じることをお話しました。深入りせずに、リラックスしましょう。何度も言いますが、今日携挙が起こればハレルヤ！ですし、明日起こればハレルヤ！です。23日に起こってもハレルヤ！です。私は、それには反対しません。ただ、私が言いたいのは、それが23日に起こらなかったとしても、いつも「新しいウサギ」を「日付の帽子」から取り出すようなことはしませんように。その日その時は、だれにも分かりません。私たちは常に備えておくのです。

10月7日にはミネソタで Olive Tree Ministries の「時を理解する」カンファレンスでお話します。そこで二つのメッセージをお話します。一つは「聖書預言の何処にアメリカはあるのか？」主は実に、アメリカに関するメッセージを与えてくださって、面白いことに、これがエレミヤ書からなのです。聖書預言におけるアメリカについてお話します。その時に、預言とは通常何を意味しているのかも、少しお話します。そして、20世紀、21世紀に生きる者にとって、聖書預言を理解するうえで、どうしてアメリカが重要なのか。それをお話してから、ヨーロッパに関する私のメッセージの第二章をお話します。ヨーロッパは、さらに反キリストに近づいています。ヨーロッパにどれほど準備が出来ているかについて語った、「ヨーロッパ——反キリスト到来の備えが整いつつある」が前回の同じカンファレンスでの最後のメッセージでした。そして今回は、この一年に何が起ったか、どれだけ近づいたかを見て行きます。皆さんが理解できるように簡潔にお話しますと、——メッセージ全部はお話しませんが——というよりも、メッセージ自体まだ完成していませんし。私は、このメッセージをヨーロッパでまとめます。ヨーロッパの中心で。そこでは、どれほど近づいているのかを理解できますから。それは前回も同様でした。皆さんに理解しておいてほしいのは、バビロンはエレミヤの時に預言された通り、崩壊し、起き上がれませんでした。しかし、聖書の中には黙示録まで、バビロンは存在し続けます。つまり、バビロンの霊、バビロンの役割は文脈全体を通して、過去も現在も未来も存在します。それは地理的に始まり、同じ霊が世界の違う部分で、最終的にはヨーロッパで止まります。そして、最終的にヨーロッパは反キリストを生み出します。ですから、私たちはそこで対処することになるのです。それから、イギリスでは「ハルマゲドン」について、また「大患難」についてもお話します。これらは二つの異なる話題です。ハルマゲドンは、大患難の最終段階ですから。ともかく、大患難自体についてお話します。大患難の名前は何か？大患難はいつ始まるのか？大患難はどれくらい続くのか？ユダヤ人の視点では

どうなのか？大患難が起こっている間、誰がその中心人物なのか？大患難の間、人々に福音を伝える為に、神は何をされるのか？誰が用いられるのか？何のために？どのようにして？いつ？これら全ての質問にお答えします。そして、ハルマゲドンに関しては、黙示録 16:16 に書かれている御言葉ではありませんが、メギドというヘブル語の言葉から来ている事を理解しておかなければなりません。「ハル・メギド」何故この名前が使われているのか、ハルマゲドンはいつ起こるのか、メギドの谷で起こった他の出来事と何が違うのかを、理解していきます。そして、ハルマゲドンはどこで起こるのか？これはどうやらメギドで起こるのではない様です。何故でしょう？さらには、何故ハルマゲドンはあるのか？これは何なのか？誰が、どのようにしてこれを終わらせるのか？お話することがたくさんあります。これらが、イギリスでお話する内容です。

以上が、現在起こっていることのアップデートと、私が今用意している次のミニストリーでのメッセージについて。短いアップデートでした。

以上です。

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジューAmir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO